

---

# 恋とも列車2

樹理

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋とも列車2

### 【Nコード】

N2244D

### 【作者名】

樹理

### 【あらすじ】

主人公のあかねはいろんな困難をのりこえ成長していくストーリー！

## 第1話　友達

これは、最も輝いていた  
私の人生を描いた  
友情、恋愛を描く  
ストーリーである。

私の名前は、松川あかね。

今ね、女子の間で、友情関係がみだれてきてる。ん――？  
簡単に言うと

女子どうしの「好き、嫌い」関係ってわけ。  
私も、もちろん、きらいな女子ぐらいいる。

名前は、あかり。  
みんなに嫌われている。

じこちゅうだし？

男好きだし？

だから。

今日話す、物語は、あかりを避けたところの話だった。

「今日も、一日がんばるぞー！ー！」

昨日は、あかりにお説教されちゃった。

なんか？　かってにおこって？

知らないけど。

私は、いやだった。

帰りもお説教だよ？

楽しくかえりたいのにさ。

いやだよ。

今日掃除の時間

「長いほつきげつと」

美和と、話をしていた。

「あのさ、あかり、いやだ。」

「うちもだよ」

と喋っていたら、あかりがきた。

「長いほうき貸してよ。」

準備室、散ちっちゃいから、いいじゃん！」

私は、それでも、かさなかった。

美和が

「かぎとりにいこう！」

と、言ったので、家庭科室を後にした。

美和が

「なにあの態度。」

じこちゆうだし？

ほうきとったのはあたしたちじゃん！」

確かに確かに。

かぎをとりいき、家庭科室に戻った。美和が

「あかり、にらんでない？」

と言ったので、私は

「ほっとけ！」

と喋って、掃除した。

ちよつと、まずい空気になっていたから、

男子の山田にほうきをわたし、あかりの元へ向かった。

「あかり！ほうきやまだたちがもってるから！」

と喋ったら、

「は？なに喋ってんの？かんちがいしないで！」

え、、、、。

私は、その場を後にした。美和にそのことを話したら

「うざっ」

と喋って、掃除を終わりにした。

と、クラスで一番おもしろい、繭に相談した。

「うちも、きらいだから、。」

ってか意味わかんないし。」  
って言ってた。

といって、昼休みになった。

「CDかけに行こう！」

クラス一のCDをいっぱいもっている、ななちゃん。

部屋にむかい、あかりももちろんきた。

男子もいた。

「じゃあ、女子がさきね！」

女子がCDジャンケンにかつたので、CDをかけた。

あかりは、すもうをして、遊んでいる。

その部屋にはピアノがおいてあったので、  
引いていた。

美和が

「あかりのピアノの音で、聞こえない！」  
と言った。

それで、昼休みがすぎ、かえるときになった。

「あかねいろ、うちといるとき元気ない。」

やば、、、、。

ばれたら、、、、。

そこで、私はちがう話題にした。

一件落着？

でも、私たちの友情バトルはまだまだ続く

こう思いながら、私は、あかりと、学校へと向かった

## 第1話〜友達〜（後書き）

恋とも列車シリーズ代2段！  
みなさまのおかげです！  
感想よろしく願います！

## 第2話ゝ告白ゝ（前書き）

主人公あかねは

いろいろな困難や

友情、恋愛、

などを、経験していく

成長ストーリー

第2話！！

## 第2話　告白

これは、最も輝いていた  
私の人生を描いた  
友情、恋愛を描く  
ストーリーである。

私は、今日も学校に行った。

今日は、朝から、いい気持ち!!

また、問題児のあかりと行った。

今から話す今日の物語は、「告白」をテーマにした

物語である。

今日は、昇降口で、繭とあった。

その時、友達の百合かのかから、こんなお願いことをたのまれた。

「あのさ、金曜日、小倉から、テガミもらったのを、

ゴミ箱の一番上においてあるから、

おくのほづに捨てておいて!」



と、言われたので、実行した。

「小倉、もてないのに、、、、、、。」

私は、そう思った。

でも、事件がおきたのは、今日の休み時間

「ねえ、告白しないのお？」

と、突然声がした。

「なにないい」

私は、聞いた。

と、クラスの楓に聞いた。

「あのね、ごによごによ、、、、、」

あーそうお言っいみかあー！

私は、一生件名協力しようと、決心した。

そこで、あのあかりも知ってしまった。

あかりは、口が軽い。

だから、、みんな嫌がっている。

現在、告白しようとしているのは、かのかと、美和。

かのかのすきな人があかりと一緒になのだ。

美和は、1組だ。

なので、典子が

「なんかさあゝ、あかりも、将人のことがすきジャン？

だから、なんか奪いそうな感じだよねえゝ？」

たしかにそうだ。

あかりは、小悪魔。

かのかが告白すれば

美和も告白する。

でも、それは、みんなに言われたからだ。

告白なんか、自分がきめること。

なのに、

2人は、みんなに言われたから、やるんじゃ、

意味ない。

私はそう思う。

私は、美和と、同じ班だ。

美和が

「告白したほうがいいと思う?。」

私は、こう答えた。

「あのね、告白していいことはひとつだけある。

それはね新しい『恋』に踏み出せることなんだよ?

告白なんか、自分が決めることだよ。

人にばかり頼ってないで、自分で決めな!」

私は、美和にお説教した見たいだった。

でもね、かのかにも、おんなじことを言った。

そしたら、いきなり

「告白なんかしない。

多分バレンタインにする。」

え

まちっすか？

そしたら、、、あかりが、、、

将人とつちゃうじゃーん！

私は、あかりとかえった。

「あかり？もしかしてさあ。

将人、かのかに取られたくない？」

と、聞いた。すると、

「うん。そりゃあそうだよ。」

え、、、。本音言った。

「じゃあ、告白すれば？」

といったら、

「ん、、、、、、、、」

と、悩んでいた。

少し歩くと、

「かのかかわいいし？告白すれば、OKでちゃうかもよ、？」

と、あかりをおどしたら、

「かのか？かわいくないじゃん！びみょーだし？

うち、自信あるよ！」

あるんかい！

あんま可愛くないと思うんですけど、。。。

そう思いながら、家にいつて、

この小説を書いた。

この物語は、実話ですよ。

本当の言葉をこの物語に書きました。

第3話もおたのしみにしててください。

きつと、楽しい実話をかかえながら――

私は、そう思い、学校へと向かった。

## 第2話〜告白〜（後書き）

どうでしょう？

実話ですよ？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2244d/>

---

恋とも列車2

2010年10月30日06時01分発行